

終了課題成果報告書

研究テーマ名	埼玉県における野生動植物の分布情報の収集・解析と保全管理策の検討						
研究担当者(共同研究者含む)	角田裕志、安野翔、三輪誠、米倉哲志、王効拳						
実施期間	令和元年度 ～ 令和3年度 (3か年)						
研究区分	自主研究事業 (共同研究機関名:)						
研究費(千円)	年度	年度	年度	年度	年度	研究費合計	備考
	自主研究費	520	451	114		1085	
関連外部資金							
環境基本計画上の位置付	(目標)3恵み豊かなみどりや川に彩られ、生物の多様性に富んだ自然共生社会づくり (施策)10生物多様性の保全						
背景と目的(目標設定)							
<p>埼玉県では、特定外来生物の侵入や特定の在来生物の増加が、県内の生物多様性や生態系に影響を及ぼしつつある。県には、できる限りこれらの影響を抑制することが求められている。そこで本研究では、県内において特定外来生物(特に、外来動物)や分布域拡大の顕著な在来鳥獣類について、近年の分布状況や生態系等に与える影響について詳細な情報を収集・解析し、その影響を抑制するための方法を検討・提案する。</p>							
研究内容(緊急性・必要性、新規性・独創性)							
<ul style="list-style-type: none"> ・既存の令達業務等では扱われていないが県民からの問い合わせが多く緊急性が高いと考えられる特定外来生物(マスクラット、コクチバス)の分布域や在来生態系への影響を把握し、効果的な防除対策等について検討する。 ・近年の急速な分布拡大により県民生活に大きな影響を及ぼし得るニホンジカ、イノシシについて、自治体からの情報やオープンソースデータを活用して、市街地の出没状況やその動向を把握し、データベースを作成するとともに、その状況を可視化する。 							
成果の概要(目標達成度)							
<ul style="list-style-type: none"> ・県民、自治体、環境管理事務所から情報提供によって2011年から2021年まで計23件のマスクラットの目撃情報を収集した。県東部の中川・江戸川水系に広範囲に分布することを明らかにした。 ・川越市の新河岸川においてコクチバスの季節的な生息状況を把握し、特に晩春から夏の繁殖期に緩流域に分布する成魚を狙った防除が定着・繁殖抑制に効果的であることを示した。また、捕獲個体の胃内容物分析からコクチバスが主に外来甲殻類を捕食することを明らかにした。 ・ニホンジカ20件、イノシシ164件の市街地出没情報を収集した。特にイノシシは県中・東部の平野部を含む広範囲での出没例を把握し、GISによってマップ作製を行った。 							
成果の公表(発表・投稿、講演会の開催、報道機関の活用、特許取得等)							
<p>角田裕志・梅澤和也(2021)埼玉県新河岸川における外来魚コクチバスの侵入状況と食性. 野生生物と社会9: 65-74.</p> <p>梅澤和也・角田裕志(2022) 高等学校生物における生物多様性教材の開発. 生物教育64(1): 受理済み.</p> <p>安野翔・角田裕志、埼玉県における特定外来生物マスクラットの生息状況. NORNAC22、若狭、2019年11月.</p> <p>角田裕志・梅澤和也、新河岸川における外来魚コクチバスの侵入状況と食性. 「野生生物と社会」学会第26回大会、岐阜、2021年11月.</p>							
成果の発展性(埼玉県(行政・地域)への貢献、技術発展・実用化、課題等)							
<ul style="list-style-type: none"> ・マスクラットの分布情報はHPで公開し、今後県民参加型調査等への展開を検討している。 ・コクチバスの防除手法については新河岸川と同規模の小河川への応用が可能と考えられる。 ・ニホンジカ、イノシシの市街地出没データをもとに、GISによる解析やシミュレーションモデルを用いて、出没リスクの推定やポテンシャルマップの作成を行う研究への発展を計画している。 							